
ブック・ワールド

ミジェラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブック・ワールド

【著者名】

ミジエラス

【あらすじ】

本の世界、ブック・ワールド。そこへ足を踏み入れたものはそのまま本の世界に取り残される。戻る方法はただ一つ、「通り道」を戻る事。

プロローグ

その世界に足を踏み入れてはならないよ。その世界の空氣を吸つてはいけないよ。

その世界の虜になつてはいけないよ。その世界に首を突つ込んではいけないよ。

その本を開いてはいけないよ。その本を見てはいけないよ。その本に触れてはいけないよ。その本を読んではいけないよ。

もし、開いてしまつたら。もし、読んでしまつたら。
あなたはその瞬間から旅人となつてしまふ。

本の旅人。

何処かの町の何処かの図書館。奥、難しい本ばかりであまり人も歩いてこないスペース。そこの職員もこのスペースの放つ陰気な雰囲気を嫌つて寄り付かない。

『バサツ』

本が落下する。だが気付く人も居ない、仮に気付いたとしてもあまり気にはとめないだろう。

本の表紙には「通り道」と黒字で書いてある。それ以外は何の装飾も無い、白地の殺風景な表紙。

『パラツ・・・パララツ』

何の反動もなしに本のページがめくられる。ページの一つ一つにはこの世に存在しないような生き物の絵が描いてある。それは時々動いているように見える。

『パラツ・・・ピシイツ』

あるページで突然止まる。そのページには表紙と同じく、「通り道」の黒字の字しかなかつた。

だが、そのページだけが異様な紫の光を発している。

『時期は来た』

突然、本からかすかにしか聞き取れないような声が響く。と同時に開いたページ一面が何かの紋章に埋めつくされていく。そして今度は表紙が動き、そのままパタン、と閉じた。

『ガサツ』

表紙には「通り道」の字以外に「旅人」の文字が刻まれていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5683b/>

ブック・ワールド

2010年10月11日15時20分発行